

古殿町全域

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 作付面積を12haまで拡大するとともに、水稲との複合経営による収益増を目指す。
- 大豆、そばの輪作体系（3年に1回程度ほ場を交換）の確立を図る。
- 湿害対策技術の定着を図り、収量を安定させる。
- 関係機関の協同した生産支援体制を維持し、発展させる。



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】大豆：3.6ha（R3）→9.7ha（R5）
- 1年1作を基幹とする3年輪作でブロックローテーション（大豆→そば）
- 中心的な担い手：法人1戸、個人生産者4戸



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産の取組>

- 生産した大豆は町が全量買い上げし、大豆ミートに加工している。大豆ミートは道の駅での販売や町内の学校給食に提供されている。

<湿害対策技術の導入及び追肥の適期実施>

- R4に、農機具メーカーに実演を依頼し、「耕耘同時畝立て播種」実証ほを設置。結果を反省会で周知した。
- 関係機関との個別ほ場巡回を実施し、ほ場毎に適期の追肥作業となるよう指導した。



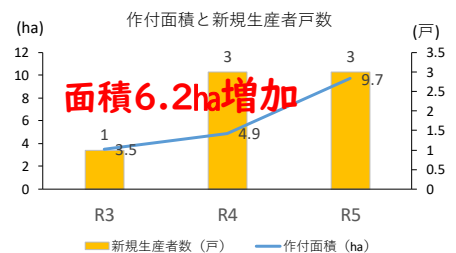
4 取組成果

<新規生産者の確保、面積拡大>

- 町・JAと連携し、新規作付者の掘り起こしを実施→毎年新規生産者を確保（R3：1戸、R4：3戸、R5：3戸）
- 追肥の実施により収量が向上した経験から面積拡大となった。（R3：3.6ha→R5：9.7ha）

<湿害対策技術の導入による出芽の確保>

- 耕耘同時畝立て播種により、収量確保が可能であることを実証した。
- R5に、2戸で畝立て播種を導入となった。



5 課題（6年度のポイント）

- 土壌処理剤や茎葉処理剤の適期散布による雑草対策を徹底する。
- 播種を集約した際の試算を提示し、作付している法人を支援する。
- 高温年の品質向上を図るために、畦間灌水や高温耐性品種の実証ほを設置する。